
僕のあり得ない日々

涼宮 真紅郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕のあり得ない日々

【Nコード】

N0575I

【作者名】

涼宮 真紅郎

【あらすじ】

「ん、もう朝か・・・。」はじめまして。僕の名前は角崎慎太郎かどきしんたろう。平凡な中学生さ。って平凡だったらいんだけどね・・・。これは僕のあり得ない日々のお話です。

第一話：はじめまして

「ん、もう朝か・・・。」

はじめまして。

僕の名前は角崎かどさき 慎太郎しんたろう

平凡な中学生さ

って平凡だったらいいんだけどね・・・。

これは僕のあり得ない日々のお話です。

第一話・はじめまして（後書き）

これから、頑張って書きます。

第二話：朝の目覚め

「ふああゝ。」

寝起きの頭ほど回らない物はないと僕は思います。
だって隣で寝ている人にも気づかないんだもん。

「んゝ。」

「なーんだ、楓か・・・って楓ー！！！！」

僕の隣で寝ていたのは幼馴染の木島きしま 楓。かえで

（どどどどど、どーして楓が僕の布団に！！！！）

「ん。おはよう慎。」

半分寝ボケている楓が起きた。

やばい、やばい、やばい！！！！

何がやばいか、それは僕の命！！！！

楓は武術の達人で百戦錬磨の女の子。

テストでも毎回学年で上位に入る。（あつ、僕達は中三ね）

けっこーかわいくて学校の男子にかなり人気があり、さらに女子の
人気もある。

まさに、パーフェクトな女の子なのだ！！！！

って力説してる場合じゃなかった！！！！

今すぐ脱出しなければ！

「じゃ、じゃー楓。僕は一階にいるからね！」

ダッシュで離脱・・・と思いきや、足が動かない！

なぜ！

答えは簡単！

楓が僕の足を掴んでいるからでした。

「・・・行っちゃやだ。」

いや、今ここで甘えん坊モード発動されても！

（甘えん坊モードはのちのち説明します）

「・・・こっちこい。」

つと寝起きでは考えられないほどのパワーで引っ張られました。

「うござ!」

顔を思いつきり打った!!!

鼻血が出るー!!!と鼻を押さえていると

「・・・抱き枕ー。」

「ちょ!」

いや、抱きつかれるのはいいんだけど柔らかいものが当たってます
!!!!

ん、なにげ大き・・・いや!そんなこと考えちゃだめだ!!!

「楓、離れて!」

「いやー。」

駄々をこねる楓。

でも、少しかわいいかも。

学校では委員長でみんなを引っ張っていくからビシッ!ってしてる
けどこのギャップの差が・・・。

「ってこんなこと考えていいわけがないー!!!」

なんか、絶叫が多いな僕・・・。

「はっ!」

そんなこと考えてるまに目が覚めてしまった楓。

「あっ・・・。」

僕を凝視する楓。

「・・・おはよー楓・・・。」

「・・・。。。」

あのー楓さん?

プルプルしてますよ?

「この・・・。」

「はい?」

キッと睨まれ

「この変態ッ!!!!」

「がほおっ!!!!」

顔面殴られた。

あー僕どうなっちゃうんだろ・・・。

そこで僕の意識が途絶えた・・・。

第二話：朝の目覚め（後書き）

グダグダですけど、感想と意見をくれたら嬉しいです。これからもがんばります。

第三話：なんかちょっと重い？

あれから僕が目覚めたのが十分後・・・。

これだけで済んだのはある意味奇跡としかいえない。

「ほんとーに申し訳ございません！！！」

「・・・・・・・・・・。」

さつきからこの状態、何回謝っても喋ってくれない。

・・・なんで僕が謝ってるんだろ？どちらかというと僕、被害者？

「なにが被害者だ！！！！」

うお！だ、誰だ！

「心の中のお前だ！！」

へ？心の中の？

「まゝ、簡単に言えば一年前のお前だな」

・・・記憶デリート・・・。

「あ、ちょ！テメ・・・！！」

・・・一年前のことはあまり思い出したくない。

「・・・・・・・・ツ！」

ん？だれか呼んでる。

「・・・・・・・・太郎ツ！」

楓か？

「バカ慎太郎ツ！」

「ハイッ！」

やべー！無視してた。

「私が何回も呼んでいるのに、お前ときたらボーっとして！！！！」

「すいませんでしたッ！！！」

「まあ、いい。」

「で、何？楓？」

「いや、朝のことだが私も悪かった、つい癖で。」

僕の両親と楓の両親は仲がいいから時々楓が泊まりに来て、

楓とは小学校三年生まで一緒に寝ていたから。

「・・・まあ、慎太と一緒に暮らしてやっと一年か・・・。」

楓は一年前から僕の家に住んでいる。

彼女の両親が一年前から仕事関係で外国に行き日本にいないからだ。

「・・・一年前、慎太に久しぶりに会った時はびっくりしたけどね。」

「・・・まあ、ね。」

僕は小学五年生まではこの町にいたけどそれから三年間は両親の都合で引越して一年前帰ってきた。

「あの頃はあんまり思い出したくないから・・・。」

「あーご、ごめん。」

重い雰囲気になってしまった・・・。

「お兄ちゃん、楓さんおはよー」

「あ、おはよう心ちゃん。」

僕の妹の角崎 心かどさき こころ

中学一年生だ。

ナイスだ！我が妹よ！

「お、お兄ちゃん？なんで笑顔で親指立てて私に向けるの？」

「まあ、そこは置いといて、朝ごはんにしよ？」

ま、朝ごはんはもうできてるけど。

「うん。おかーさん！ごはんだよー！」

「すぐ行くー。」

僕のお母さんは専業主婦。

お父さんは単身赴任中。

僕のお母さんは少しというか、かなり変わっている。

それは・・・、

「ハイお待たせー。」

とにかく若い。

四十は過ぎてるはずなのに二十代前半にしか見えない。

「ふふっ」根本的な小説の母よ。」

「母さん！それ言っちゃダメ！！！」

やばい、この発言は！！！！

「ま、それは置いて、いただきます。」

「いただきます。」

朝はご飯に和食これがサイコーだよ。

あ、そこで突っ込まないの？

とか思った人。

僕の母さんにそれは無駄。

覚えておいてね？

「じゃ、ご飯も食べたし学校行こう。」

「そうだね。」

「ハイ！」

食器を片付けて僕たちは学校へ向かうことにした。

「行ってきます。」

「はい。行ってらっしゃい。」

第三話：なんかちよつと重い？（後書き）

角崎 慎太郎 かどざき しんたろう

身長：百六十八センチ

年齢：十五歳

木島 楓 きじま かえで

身長：百六十二センチ

年齢：十五歳

角崎 心 かどざき こころ

身長：百五十八センチ

年齢：十三歳

角崎 美貴 かどざき みき

身長：百五十九センチ

年齢：不明

今のところの設定です。

キャラがまとまったらまた書きます。

第四話・朝の通学ってちょっと楽しくない？

僕の家から歩いて三十分ぐらいのところにある僕たちの学校
荻棟学校

名前はまー冗談みたいな名前ですがそんな名前だから仕方ない。

「今月出る新しい服が……。」

「春用の服で……。」

は、女子軍は楽しそうだね。

「おっはよー！楓ちゅあーんと心ちゅあーん！！！！……と慎太。」

「おはよう、慎太、楓さん、心ちゃん。」

「おはよう。」 楓

「おはようございます。」 心

……来たか。

最初のバカは三浦 和彦

女の子が大好きなアホ、黙ってればかつこいいが……。

次に喋ったのが菊池 彰

女っぽい名前だが男。

成績優秀、スポーツ万能、イケメンの三拍子がそろった完璧人間。
僕が戻ってきたときはじめて友達になったうちの二人だ

「おはよう彰。」

「慎太！！！！俺は無視か！！！！」

いちいちウルセーな！

「……よつ。汚物。」

「汚物って……。は！やめて！！！！そんな目で僕を見ないでー！」

バカは無視無視

「ちよっ！みんな俺を置いてくなくなって！
さすがみんな、わかってくれたね。」

- - - - ちよつと離れた場所

「ここが、私の新しい学校。」

そこには一人の女の人がいた。

第四話・朝の通学ってちょっと楽しくない？（後書き）

すいません。

更新がかなり遅くなりました。

一応、受験生なので勉強の方が大変でした。
次は新キャラ登場の予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0575i/>

僕のあり得ない日々

2010年10月12日06時54分発行